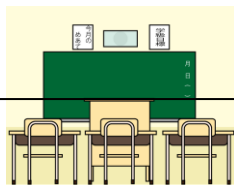


コラム11 ～教室の中は…～



教室前面の掲示は、気が散らないよう、派手なもの避けましょう

黒板

児童への朝のメッセージを書く。

学級目標やめあて

子どもたちと話し合って決める。

係りの紹介、保健目標、月目標などの掲示

貼りっぱなしではなく、時折ふれて指導を。

学級文庫

読書をすすめる意味でも、幅広いジャンルを。

動物の飼育

全員がかかわりやすい場所へ。

ノート入れ

提出先を固定しておくとう便利。

作品の掲示

図工や書写など。可能であればコメントをつけて。

ロッカー

特に低学年は、使い方の指導も。

備品入れ

係活動などで使いやすいようペンや画用紙を。管理はしっかりとしておくこと。

学級通信・学年通信の掲示

ゴミ箱

あふれていないか、チェック。分別も。



14 子どもをよく知る

子どもをよく知るには、常に子どもの世界にアンテナを張り、話をするなど、子どもと接する時間を増やすことが大切です。

- *子どもと一緒に過ごし、よく観察して一人一人のことを理解しましょう。表面的な言動だけでなく、その背景にどんな思いがあるのか、気付くことが大切です。
- *子どもの気持ち、立場になって考えてみましょう。（ただし、あくまで教師であることを忘れずに！）
- *テレビやゲーム、漫画の話題にも敏感に反応できるようにすると関係づくりのきっかけになります。子どもの持ち物や子ども同士の会話から好きなものを知ることできます。
- *日記は1対1での大切なコミュニケーション・ツールです。言にくいことも自由に書ける雰囲気をつくりたいものです。
- *子どものことを知っているのは、担任だけではありません。担任の前では見せない一面を知っている先生もいます。様々な先生から情報収集するとともに、自分からも情報をたくさん提供しましょう。

コラム12 ～こんな人から情報収集～

教員…専科、委員会活動、生徒会活動、クラブ活動、部活動、
養護教諭、教科担当、事務職員

地域…登下校中の見守り活動、PTA 主催の行事関係者

家族…両親や祖父母（家庭訪問や懇談以外にも、欠席の連絡等
少しの関わりから家庭での様子が聞けることがある）



15 話を「聴く」（聞くではない）

話を聴くことが関係づくりの第一歩です。子どもは誰かに聴いてほしいと思っています。忙しくても耳を傾け、子どもを理解することを心がけましょう。

- * どんなことでも話しかけられたら話を聴きましょう。どうしても時間がなかった場合には、必ず後から尋ねましょう。
- * 雑談も大切にします。軽く会話しているときもポイントを聴き流さない努力をしましょう。
- * 「自己開示」をモットーに、話せる内容はどんどん話しましょう。例えば自分の小学生・中学生の時の話など、普段知ることが出来ない担任の一面を話すと子どもたちも親しみを覚えることがあります。
- * 聴くときは、子どもと目線が合う高さの姿勢を取りましょう。
- * 相づちを打ちながら聴くと子どもは話しやすいです。



コラム13 ～「子どもを見る」～

「休み時間のこと、2階の教室から子どもたちを見ていたところ、砂場の様子が目にとまりました。受け持ちの男の子（小学5年生）が、なんと一年生の子どもたち何人かを投げ飛ばしているではありませんか。それも次から次へと、です。その子は約束事が守れなくて、よく注意をしている子でした。『これは大変だ！またか』と砂場に駆けつけて行きました。

ところがです。『やめろ！』と大きな声を出そうとしていた私に、1年生の笑い声が聞こえてきたのです。『もう一回、もう一回』とうれしそうに催促までしているのです。この5年生は、投げはするものの、地面の近くまで抱えるようにしており、そっと砂場におろしていたのでした。」

見た目や思い込みで判断するのではなく、しっかりと子どもたちの声に耳を傾けることが大切です。

出典：「教職課程 2009. 12月号」より

16 声をかける

注意して見ておきたいのはやはりおとなしい子。自分から話しに来ないだけでその子なりに考えていることがたくさんあるはずです。

- * 自分から子どもに積極的に声をかけましょう。「毎日全員に一言は声をかける。」など、自分の目標を作っておくこともおすすめです。
- * 集団の中で一番配慮を要する子の視点に立ち、寄り添いましょう。
- * 休み時間に一人で教室に残っている子には気を配って声をかけましょう。
- * “元気調べ”を毎朝行うなど、体調確認とともにコミュニケーションをとるのも良いでしょう。
- * 声をかけても返事が返ってこない子もいます。それでも話しかけ続けることが大切です。
- * 休み時間や放課後など、教室で片付けなどをしていると他の子どもがいなくなり相談しやすい状況になることがあります。子どもから話しかけやすいタイミングを意識的につくることも大切です。



17 子どもと一緒に～する

子どもと一緒に過ごすことで、子どもの友達関係や家庭事情が見えてくることがよくあります。

- * 休み時間に一緒に遊んだり会話したりすると、授業中に見られない子どもの素顔（性格や友だちとの関係など）が見られることがあります。何気ない言動に注目しましょう。
- * これまでと違う子どもと遊んでいるのを見かけたときには、友だち関係が変わったのかもしれませんが、しっかりと観察しておきましょう。
- * 「休み時間に1日1回は、外で子どもたちと遊ぶ」などの自分の目標を作っておくと良いでしょう。曜日を決めて「クラス遊びの日」を設け、子どもたちの自主的活動の充実を図ることもあります。外遊びの苦手な子どもとも、様々な遊びを通して関わる努力をしましょう。
- * 掃除などの時間には子どもの別の姿が見えます。また、子どもと一緒に教師がする姿を見せることで子どもがやる気になります。
- * 時には、あえて少し離れて子どもを観察することも大切です。一緒に活動する時も、常に全体を見る目を持ちましょう。

コラム14 ～「外遊び、みんなでチャレンジ！」～

奈良県教育委員会では、子どもたちの外遊びを応援するために、「外遊び、みんなでチャレンジ！」を行っています。一人種目やペア種目、グループ種目と人数に合わせて参加することも可能。

詳しくは保健体育課のホームページをご覧ください。



18 子どもの問題行動（1）

【問題を起こさないために】

日頃から落ち着いた温かい雰囲気をつくって予防的な生徒指導を目指しましょう。

* どんな子どもにも、その子の将来を思って声をかけ、励まし、愛情を注ぎ続けることが基本です。



* 次のサインに注意！

欠席、保健室に行く頻度、提出物の遅れ、友だちとの関わり方や一緒に遊ぶ友達の変化、チャイム着席の遅れ、言葉遣いや持ち物・衣服の状態の変化等、小さなサインも見逃さないこと。小さなことが重なって大きな問題に発展します。

* どんな小さなことも学年の先生に報告・連絡・相談することが大事です。一人で悩まず、抱え込まず、組織で動く体制を作りましょう。担当ではない子どもであっても、ダメなものはダメ。校内の教師間で指導がぶれないよう学校のルールなどを確認しておきましょう。



【参考資料】奈良県教育委員会 HP よりダウンロードしてください。

○ いじめ早期発見・早期対応マニュアル

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-30214.htm

○ 中学校における暴力行為事象への指導事例集

<http://www.pref.nara.jp/secure/63511/chugaku.pdf>

○ 生徒指導ガイドライン

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-23154.htm

18 子どもの問題行動（2）

【問題が起こったら】

毅然とした態度で指導することは大切ですが、表面的な指導で終わらず、内面に抱えている課題や悩み、根本的な原因に目を向けましょう。

- * 「教室を出る」など一人では対応しきれない場面では、子どもの安全を最優先して出て行った子どもと教室にいる子ども両方に応援を頼みましょう。場合に応じてケース会議を開き他の先生に周知してもらうことも必要です。
- * 暴言や暴力、いじめなどには毅然とした態度で臨みましょう。ただし、叱ることが目的ではなく「どうすれば良かったのか」を意識させて、同じ誤ちをさせないことが大切です。
- * 「したこと」への指導だけでは根本的な解決につながりません。問題が起こった背景や原因をよく探りましょう。
- * 学校によってはスクールカウンセラーが配置されている場合があります。必要に応じて活用しましょう。
- * 問題行動には家庭環境が起因している場合もあります。他の先生方に相談しながら家庭とも連携していきましょう。
- * 不登校の子どもとは電話連絡や家庭訪問等を継続的に行い、信頼関係を作っていきます。



【参考資料】

- 不登校支援のしるべ（教員用）



http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27756.htm

19 特別な支援を必要とする子どもたちに対して

特別支援コーディネーター等、関係の先生たちや保護者、その他教育機関と連携をとり、その子の課題と、短期・長期の目標をしっかりと見定めましょう

- * 特別支援教育担当教員だけでなく、全職員がその子の実態を知っておくことが大切です。
- * 周りの子どもたちが、その子の苦手なことや頑張っていることをしっかりと理解できるような手だてが必要です。
- * 個別の指導計画等をうまく活用して、児童生徒理解、支援計画に役立てましょう。学年初めの引継ぎで、丁寧に実態を伝えることが大切です。
- * 「見通しを持たせる」「視覚化する」「急な変更をさける」などの手法を取り入れて、子どもが戸惑う場面をできるだけ減らす工夫をしましょう。保護者と密に連絡を取り合うことで新しい方法が見つかることがあります。
- * 支援が必要な子どもも含めてどの子どもにも「いけないことはいけない」と指導することが大切です。ただし、指導の方法や配慮すべき事柄については特別支援コーディネーターと相談しておくことが必要です。



【参考資料】

- 県立教育研究所のHPからさまざまな資料がダウンロードできます。

<http://www.nps.ed.jp/nara-c/gakushi/kankoubutu/>

20 部活動

部活動を楽しみにして入学してくる中学生は多いです。目標に向かって一生懸命努力し、人として成長できるような環境を作ってあげましょう。

* コンクールや試合の結果としての目標はもちろんですが、「どんな部を作りたいのか」「部活動を通してどんな子どもを育てたいのか」ビジョンをもちましょう。



* 経験のない部活動の顧問をすることもありますが、一緒に練習して上達していくつもりでやってみると良いと思います。

* 校外に出る機会には安全に十分気を付けましょう。ルールとマナーの徹底が大切です。

* 他校と試合や練習で一緒になるときは、練習方法やコーチングなどさまざまな指導方法を学ぶチャンスです。

* 子どもたちは学級とは異なる人間関係を築く中で、学級では話せない悩みを相談し合ったり、喜びを分かち合ったりしてかけがえない経験をします。担任として、学級の生徒の部活動での様子にも気を配っておくと良いでしょう。

* 体罰は、学校教育法で禁止されている、決して許されない行為です。部活動の指導に当たる中で、「なんとしても勝ちたい」「勝つ



ためには厳しい指導は不可欠だ」といった考えは、体罰を正当化することにつながるという認識をしっかりとちましましょう。

[保護者・同僚との 関係づくり]



2 1 保護者に連絡をとる手段

保護者にこまめに連絡をとって、子どもの様子を丁寧に伝えましょう。連絡帳や電話、家庭訪問などの手段をそれぞれうまく使い分けましょう。

【連絡帳で】

- * 朝一番に保護者からの連絡がないか確認しましょう。
- * 申し出・お尋ね・訴えなどの内容をよく理解して、きちんと受け止めていることがわかる表現で返事を書きましょう。
- * 人権に配慮した表記や表現をすることが必要です。
- * 丁寧な字で書きましょう。赤字で書いてはいけません。
- * ちょっとした連絡でも、印だけにせず一言添えるとよいでしょう。



【電話で】

- * 電話の使用は必要最低限にし、顔を合わせて話しましょう。
- * 顔が見えない相手に話をすることになるので、できるだけ丁寧に伝えることを意識しましょう。
- * 問題点の連絡だけで終わらず、良かったことも伝えましょう。
- * 欠席の時には、放課後必ず連絡を入れましょう。



【家庭訪問で】

- * 家庭訪問では、家庭での様子や健康面で配慮すべきこと等を真摯に聴く姿勢で伺います。
- * 「気になることがあれば家庭訪問。」いいことも気になることも、直接会って話すことが大切です。顔を合わせて話すと、互いの雰囲気をつかんで話ができます。ただし、家庭訪問をあまりして欲しくないという保護者もおられるので配慮が必要です。

2 2 保護者の話を聴くときは

聴く姿勢には共通するものがあります。こちらの思いを主張するのではなく、まず相手の思いを知ることを心がけましょう。

* 保護者の気持ちに寄り添い、言動の奥にある思いを聴き取ることが大切です。

保護者の勝手な無理難題と思えるようなことでも、子どもを思うがゆえの行動であることが多いです。表面的な言動にとらわれず、相手の本当の思いを聴こうとする姿勢が大切です。

* 要望を伝えられたときは、できる・できないは別にして、話を最後まで聴くことが大切です。

* 実現可能かどうか迷った時には、即答は避けて、同僚や上司に相談しましょう。

* 一緒に子どもを育てる姿勢をもち、保護者とともに解決していこうという気持ちを基盤にして話しましょう。

* 断定的な話し方をせず、事実以外は、考えや意見として話しましょう。

* カウンセリングマインドを意識しましょう。



コラム15 ～カウンセリングマインドとは…～

「カウンセリングの心」「カウンセリングの精神」「カウンセリングを行うときのよな心」という意味で広く使われている和製英語です。相手の気持ちを、相手の身になって感じることであり、相手と気持ちの通じ合う人間関係を大切にす基本的な態度・技能を指します。

2 3 保護者との関係を深めるために

子どもたちの活動を通して保護者との関係を深めることができます。手まめ、口まめ、足まめになることが、連携への第一歩です。

* 学級の様子を学級通信で発信しましょう。

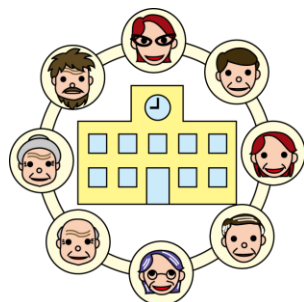
子どもの作文、授業中や掃除時間の様子などや特にほめてあげたことをこまめに伝えることが大切です。日々の子どもたちの様子を写真や文章で伝えることで、保護者と学級のつながりがより深くなります。児童・生徒の作品や写真を載せるときには、同じ子ばかりが何度も掲載されることのないよう注意しましょう。



* 学級懇談会でクラスの様子を伝えましょう。慣れるまでは前日までに話す内容や予想される質問をまとめておくといいでしょう。学級による差が出ないように、学年の先生方と内容を合わせておくことも大切です。

* 保護者や地域とともに子どもを育てる意識を。

子どもの成長には地域や家庭の役割も大きいです。一緒に子どもを育てていくという思いを伝えましょう。



2 4 職員室での基本姿勢

先生たちみんなが協力し合³って学校は成り立っています。
進んで会話を心がけたいものです。

- * 同年代とだけでなく学校に関わっている色々な人と話しましょう。
- * 同僚には丁寧な言葉づかいをしましょう。
- * お客様にお茶を出したり電話の対応をしたりするなど、進んでしましょう。
- * 放課後は職員室で仕事をするようにしましょう。ふとした雑談の中に先輩の実践のヒントが見つかるかもしれません。
- * 「仕事を手伝って」と頼まれたらチャンスと思って、進んで取り組みましょう。手伝いながら会話が弾むことも多いです。
- * 養護教諭の先生には、欠席やケガの連絡だけでなく、子どもの状況なども伝えましょう。何かあったときにすぐ相談にのってもらいましょう。



25 学年での基本姿勢

ハウレンソウ（報告・連絡・相談）の徹底をしましょう。初任者と学年を組む先生は「教えてあげたい」という気持ちでいてくださいます。どんな些細なことでも尋ねることが大切です。

- * 担任している学年で協力して教育活動を進めることが基本です。自分の学級に目を向け過ぎてしまったり、勝手な思い込みだけで進めたりしないよう十分共通理解するようにしましょう。
- * 分からないこと、困っていることがあればすぐに質問・相談です。できないことを隠さないようにしましょう。特に初任者は「わからないことがわからない」という状態に陥りやすいので注意しましょう。
- * 学級内でのトラブルは、緊急性を要する場合はもちろん、些細なことでも学年主任や生徒指導主任、管理職に報告します。一人で抱え込まないようにしましょう。
- * 情報交換が大切です。学年の子どもの実態やクラスの実態、授業の進度などを情報交換し共通理解しておきましょう。
- * 副担任や特別支援担当の先生とは、毎日子どもの様子や出来事などを情報交換しましょう。
- * プリントの印刷や作業は自分から率先して行いましょう。



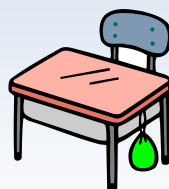
26 周りの先生から学ぶ

若い教師、経験が浅い教師にとって、頼るべきは経験豊富な先生方。良いところはどんどん吸収し、未熟なところはどんどん指導してもらいましょう。

- * 自分から質問し、学ぶ姿勢をもちましょう。
- * 他の先生の授業を参観させてもらい、スキルアップを図りましょう。(必ず事前にお願ひし、授業には遅刻しない。授業後にはお礼の気持ちや感想を伝える。)
- * 複数の先輩の先生方にアドバイスをいただくと、いくつもの視点から意見がいただけます。様々な見方を学び、多面的に考えようとする姿勢で話を聞きましょう。
- * 他の先生の良いところを積極的に取り入れ、目標にしましょう。先輩の先生の手法をそのまま真似ても、うまくいくとは限りません。参考にしながら、自分らしさをつくり出していきましょう。

コラム16 ～他の先生から学ぶポイント～

- ・ 教材研究を一緒にさせてもらう
- ・ 学級通信
- ・ 特色ある係活動
- ・ 子どもへの話し方や関わり方
- ・ 教室の掲示物
- ・ 時間の使い方
- ・ リフレッシュの仕方 など
- ・ 会議や研修での発言



[授業について]



27 授業の準備

毎日研究授業のような準備をするのは大変ですが、最低限の準備が必要です。

* 授業の準備として必要なこと

- ・ 学習内容
- ・ 1時間のねらい
- ・ 発問計画、主要な発問
- ・ 板書計画

* 教材研究の時間の確保の仕方は人それぞれ。長期休業中にまとめて教材研究したり、土日に1週間分の教材研究をしたり。自分のできる範囲で計画的にすすめましょう。

* 小学校では具体物を用意しておく、子どもの興味が高まります。どんな教具が学校にあるのかも調べておきましょう。

* 使用する教室の教材・教具を確認しておきましょう。使用できない場合もあります。

* 身の回りの様々な事物、テレビや新聞で流れる情報が授業の素材となり、子どもたちの関心を引き出します。「何かおもしろいものないかな」という視点で町を歩くと意外な発見をすることもあります。



28 黒板の使い方

黒板は目で見て授業の内容を確認できるので、適切に使い、学習の効果をあげましょう。

- * 1時間の学習が終わった後に、その時間の流れと学んだことがわかるような板書を目指しましょう。事前に板書計画を立てておくといいですね。
- * 板書はいつも丁寧に書くことを心がけましょう。黒板の字は子どもの手本になります。自分の板書を写真で残したり、放課後に練習したりする等、努力することも大切です。
- * 次の授業のために黒板の字はきれいに消しましょう。黒板消しまっすぐ消すと、黒板消しの跡が次の授業で文字を書くときの目安となり、右下がりの文字を書いたりする心配がなくなります。
- * 色チョークの使い方のルールを子どもに説明しておくといいでしょう。(赤色は大切なところ、黄色は補足説明・・・など)
低学年では、ノートの使い方、書き方を指示することも必要でしょう。高学年では、ルールは示しつつ、自分なりの分かりやすいノートづくりに取り組ませましょう。
- * 発言者の名前を一緒に黒板に書くと、子どもの意欲もわいてきます。
- * 「黒板は子どもたちが学習に使うもの」です。授業内容以外の黒板掲示はなるべく少なくしましょう。授業中の子どもたちの思考を妨げる恐れがあります。



29 学習指導（教えがい・学びがい）

全員が同じところでつまずくわけではありません。全体指導の中でもその子に応じた指導や援助が必要です。

- * 基本は「授業ですべて理解させること」。宿題や家庭学習に頼ってははいけません。
- * 「考える時間」をつくり、子どもたちの思考を促すことが「わかる喜び」につながります。教師が話しすぎたり説明しすぎたりすると、かえって子どもの思考を邪魔することがあります。
- * 意見を交流する時間を取り入れるようにしましょう。互いの意見を発表し合ったり、質問や付け足しの意見を言い合ったりして、学び合えるような学習を取り入れたいですね。
- * 毎時間の学習のめあてを明確に示し、達成ができたかどうかの振り返りをさせることも大切です。
- * 課題の内容やレベルに応じて、個人、ペア、グループの活動を取り入れましょう。
- * 学んだことを反復練習で定着させる時間も大切です。ドリルやプリントを活用して定着度を確認しましょう。到達度に差があるときには、発展問題を取り入れたり、問題数を変えたり、学び合いをさせたりする工夫が必要です。
- * 1時間の中で、どの座席に座っている子どもも集中できるようにするためには、机間指導が有効です。



コラム17 ～家庭学習の時間の目安～

- ・小学生では、学年×10分をめやすにしておくといよい。
- ・例えば5年生の場合は、5×10分で50分。

コラム18 ～学習形態に応じた机の配置～

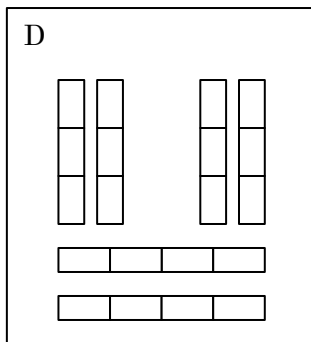
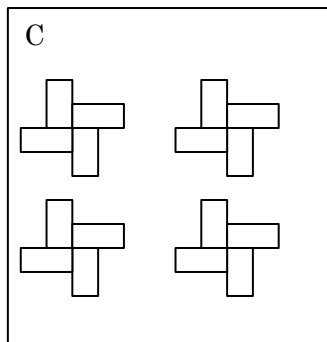
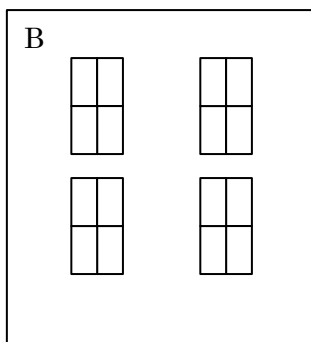
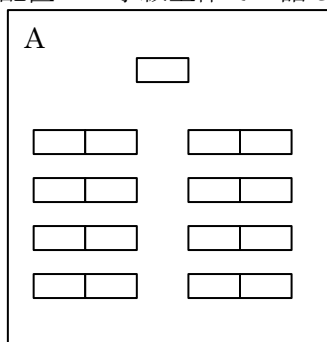
机の配置も様々

配置 A…一斉指導や全員の注意を集めたいとき

配置 B…グループ活動や給食など

配置 C…個別学習と班別の学習を混ぜて行うとき

配置 D…学級全体での話し合い



30 各教科のワンポイント

教科ごとに注意点を挙げればきりがありませんが、ここでは特に気を付けておきたいことを中心に記述しています。たくさんの先生に学びながら技術を磨いていきましょう。

【小学校国語科】

音読…しっかりと声を出して音読するために、音読するときの姿勢・教科書の持ち方・ページの繰り方をきちんと身に付けさせましょう。音読する姿勢が出来た後に、口形、声の大きさや速さに気を付けて読む指導をしましょう。

* 口形は絵や写真、声の大きさには「声のものさし」など教室掲示を工夫しましょう。

* 音読カードや評価カードなども効果的です。



【小学校社会科】

見学…「本物・実物を見せる」ということはとても大切なことです。せつかくの体験を無駄にしないよう、ねらいを意識させましょう。

* 生活科では校区探検にでかけることが多いです。発見したものを紹介し合って他の児童にも気づかせましょう。

* 3、4年生の社会科では、スーパーマーケットや農家の仕事、消防署など、普段何気なく目にしているものから気づきを導くことがポイントです。児童のふとした発見を取り上げて意識させましょう。

- * 高学年になるにつれて、地理的にも時間的にも学習の幅が広がります。見学できないこともあります。できるだけ児童の生活に近い題材・教材を扱うことで関心を高めることができます。地域や児童の実態を活かした学習を取り入れましょう。



【小学校理科】

実験…安全に実験を行うためには、実験器具の確認と予備実験が大切です。

- * 試験管やピーカーなど、ガラス製品のヒビや欠けを点検する。
- * 机の上を、整理・整頓し、実験に必要なもの以外をしまっておく。
- * 実験器具の正しい使い方を指導する。マッチの本数を確認し、アルコールランプ、ガスバーナーなど、火気に関する器具の扱いは特に慎重に。
- * 薬品の分量は正確に量る。
- * 使用済みの薬品の処理は、定められた方法で処理する。(中和させる、排水溝に流さないなど。)



【小学校体育科】

安全面の配慮…事故を防ぎ、安全に運動するためには、用具の使い方や子どもの体調管理に注意することが大切です。

- * 教員の指導の下で、体育用具の準備・片付けを行う。子どもだけでさせない。
- * 熱中症を防ぐため、子どもの様子に気を配り、必要があれば十分な水分補給や日陰での休憩を取らせる。

- * 跳び箱…上の段と下の段に分けて、複数的人数で用意するなど、体育用具の出し入れのルールを決めて、分担して行わせる。
- * マット…足を引っ掛けて事故を起こすことがあるので、マットの耳はたたむ。
- * 水泳指導…複数の教師で監視と指導を行う。児童・生徒にはバディを組ませる。また、準備運動・整理運動は、教師の指導の下で十分に行う。



コラム19 ～授業力診断チェックポイント～

項目	番号	診断の観点	評価
基本的要素	1	目線（アイコンタクト）が適切で児童生徒に向かっている	4. 3. 2. 1.
	2	声の大きさや抑揚が適切である	4. 3. 2. 1
	3	文字の大きさなども含め、板書が適切である。	4. 3. 2. 1
	4	指示が的確である	4. 3. 2. 1
	5	児童生徒の反応や発言を適切にとらえている	4. 3. 2. 1

専門的要素	1	児童生徒にねらいを明確に示している	4. 3. 2. 1.
	2	児童生徒に興味・関心をもたせる工夫を行っている	4. 3. 2. 1
	3	ねらいに即し指導内容が適切である	4. 3. 2. 1
	4	学習内容に応じて学習形態を工夫している	4. 3. 2. 1
	5	教材・教具の工夫を行っている	4. 3. 2. 1

評価基準 4：良くできている 3：概ねできている
 2：あまりできていない 1：できていない

コラム20 がんばれ～！

仕事をしていく上で、悩んだりつまづいたりすることも少なからずあることと思います。しかし、教師としての喜びややりがいもたくさんあるはず。それを思い出して乗り越えていってほしいと思います。

【昨春、教壇に立った先輩たちからのメッセージ】

- 私は今、とっても幸せです。ふとしたときに自分の学級の子どもたちの顔を見渡すと、じわじわ幸せを感じます。みなさんと、子どもたちの笑顔が輝くこの現場で会えることを楽しみにしています。(小学校)

- あっという間に最初の一ヶ月が過ぎました。忙しく何が何だかわからないうちに四ヶ月がたちましたが、子どもたちはとても可愛く楽しい毎日です。教えるというのはとてもむずかしく、素直な子どもたちはすぐ「わからへん」と言います。でも「わかった!」「あっそうか!」という場面を作ることができた時には私も嬉しくなります。6月の参観日に、教具をたくさん工夫して臨むと「今日の算数楽しかった!」と授業が終わった後で子どもたちが寄ってきてくれました。一工夫するだけで子どもたちの反応が変わるのでこれからも精進していきます。(小学校)

コラム20 がんばれ～！

- 教員採用試験を受けているときは、終わったらゴールのような気分になんてなりましたが、そうではありませんでした。毎日新しく覚えることがたくさんあり、迷った時には弱音を吐いたりすることもあります。けれど、職場の先生たちに支えられて、今があると思っています。いろんなことに前向きに、少しずつがんばりましょう。
(小学校)
- 一学期を終えて、まだまだ慣れない部分が多く、戸惑う事も多いです。しかし、子どもたちを目の前にして自分がすることは新鮮なことばかりで、不安もありますが楽しみの方が大きいです。精一杯頑張れば必ず新しい道が見えてくると思います。がんばってください！
(小学校)
- 一学期はバタバタしている間に終わってしまいましたが、今は夏休みで子どもたちに会いたい気持ちでいっぱいです。しんどさ8割、楽しさ2割という毎日ですが、2割の楽しさを心の支えに8割のしんどさからいろんなことを学んで有意義な生活をしています。(小学校)
- 現在、1年生の担任をしています。トラブルが起こったり大変な時もありますが、その分嬉しいこともたくさんあります。生徒たちの成長を一緒に見守ってくれる後輩が来るのを楽しみにしています。(中学校)

コラム21 ～困ったときは～

先輩の先生たちも、たくさん悩みながら、試行錯誤を繰り返して今に至ります。迷ったら一人で抱えず、周りの先生方に相談しましょう。

例えば・・・

- ・ 初任者研修の指導教員
- ・ 学年の先生
- ・ 同期の先生
- ・ 校長、教頭、主幹教諭
- ・ 奈良県先生応援サイト

日々の教育活動に役立つ情報を集めたサイトです！



- 例) 無償で使えるデジタル教材はありますか？
いじめへの対応の基本的な流れの資料は？
人権感覚を育むための指導資料（展開例）は？

(<http://www.nps.ed.jp/ouen/>)

「奈良県 先生応援」で検索可能

Q&Aのページはパスワードが必要です。

勤務校の校長先生や教頭先生に問い合わせてください。

～ お わ り に ～

このノートは、新しく教壇に立たれる先生方のために、ディア・ティーチャー・プログラム（以下DTP）のスタッフとリクルーター、そしてDTPを卒業していった先輩たちに協力をお願いし、自身の経験をもとにして書いていただいたもので、昨年度に第1号を発行しました。忙しい中、たくさんのコメントをいただきましたことに対しまして、御礼申し上げます。

さらに今年度は、年度当初に常識ノートを配布した新規採用の先生方へのアンケート結果を反映し、はじめの数ヶ月でとまどいが多かったことについて新たに項目を追加し、それらの項目について先生方の悩みや疑問に答えられるよう、再度先輩たちから追加のコメントをいただきました。

どの仕事もそうでしょうが、絶対に許されない失敗というものがあります。ましてや教師は人を相手にする仕事。そして人を育てる仕事。判断を間違えるわけにはいかないし、子どもたちにとって何が最も良いことなのかを毎日考え続けなければなりません。

しかし、先輩たちのコメントから感じましたのは、そんな仕事の大変さや苦勞だけではありませんでした。文面には書いておられませんが、「だからこそ、教師という仕事はすばらしい」というような、そんな思いを感じることも多くありました。

学校現場に出てみれば、うまくいかないこともたくさん。悩んでも悩んでも解決しないこともたくさん。それでも試行錯誤を続けた後に、他では決して味わうことのできないような、楽しさ、やりがい、喜び、感動を見つけることがあります。その時、その子どもたちと、その場でしか得られない、何物にも代えがたい経験です。言葉では伝えられないものかも知れません。

これから教師としてはじめの一步を踏み出されるみなさんにも、ぜひ教師としての喜びや楽しさをご自身の経験として感じてほしいと願います。きっと「やっぱり、教師という仕事はすばらしい」と思えるはずです。たくさんコメントが集まったのは、先輩たちにも「知ってほしい」という強い思いがあったからだと思います。そしていつか、みなさんと教師としての喜びを共有できたらうれしいなあと思います。

これからがスタートです。一緒に仕事ができる日を楽しみにしています。



でいあちゃん

平成25年3月

奈良県ディア・ティーチャー・プログラム
サポートオフィス教材開発班 河野 晋也

奈良県ディア・ティーチャー・プログラムについて

奈良県ディア・ティーチャー・プログラムは、奈良県の教師を志す大学3年生と大学院1年生を対象に、大学で身に付けた専門的知識を基盤として、学校現場における必要な知識や技術を中心に、教師として求められる資質や実践的指導力を身につけられるよう支援するものです。

「リクルーター」と呼ばれる教職経験2年～5年の若手教員が直接受講生をサポートし、「ディア・ティーチャー・プログラムサポートオフィス」が、プログラム全体の企画・運営に当たっています。

※ 奈良県ディア・ティーチャー・プログラムの DEAR (ディーア) は教師として大切にしてもらいたい「愛の心」「情熱」「絆」そして「夢」の頭文字から名付けられています。



困った時は…

奈良県 先生応援

検索



～新規採用教員のための常識ノート～

はじめの一步

平成24年3月発行

平成25年3月改訂

平成30年3月改訂

発行者

奈良県ディア・ティーチャー・プログラム

サポートオフィス

〒630-8501 奈良市登大路町30 奈良県庁内

TEL 0742-27-9844

FAX 0742-24-7256

表紙イラストは、奈良県立高円高等学校・デザイン科が制作にあたりました。